

五



故藤善右衛門 叙勲ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十四年七月二十九日

内閣總理大臣 加藤高明



内

閣

七月二十五日附行
大正十四年七月二十日

大正十四年七月二十日

内閣書記官

内閣書記官

内閣總理大臣

賞勳局總裁



故齋藤善右衛門儀ハ明治三十四年以來約拾萬圓ノ資財ヲ投シテ學資貸與ノ途ヲ講シ爲ニ成業シタル者多數ニ達シ夫々出テ、社會ノ實務ニ就キ皆克ク良好ノ成績ヲ擧ケツ、アリ尚當人ハ明治四十三年宮城縣ニ於ケル圖書館ノ建築設備費ヲ寄附シテ其完成ヲ見ルニ至ラシム

賞勳局

又大正三年以來多額ノ私財ヲ投シテ教育者ノ視察費ニ充テ教育ノ振興ヲ企テ殊ニ大正十年金參百萬圓ヲ出資シテ財團法人齋藤報恩會ヲ組織シ以テ公益事業ノ進展ニ資シ着々良好ノ成績ヲ擧ケ國運發展ニ貢獻スル所頗ル大ナリ其ノ多年文化風教並殖産興業ニ盡瘁シタル功績顯著ノ者ニ候處本月二十五日死亡ノ趣ニ付此際特ニ同日附ヲ以テ勲三等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレ度

此段允裁ヲ仰ク

賞
勲
局

裏
面
白
紙

齋藤善右衛門

敘勲三等授瑞寶章

右ハ報恩ノ至誠ヲ以テ文化風教並殖産興業ノ爲ニ貢献シタル事蹟著シク就中明治三十四年以來今日ニ至ル迄約拾萬圓ノ資財ヲ投シテ育英ノ爲學資貸與ノ途ヲ講シ此レニヨリテ成業シタルモノ多數夫々出テ、社

文部省

會ノ實務ニ就キ皆克ク良好ノ成績ヲ擧ケツ、アリ尚當人ハ曩ニ宮城縣ニ於ケル圖書館ノ設備完カラサルヲ嘆シ明治四十三年之レカ設備建築費ヲ寄附シテ其ノ完成ヲ見又博物標本購入基金ヲ寄附シテ同館ノ設備ヲ完フセリ次テ大正三年以來多額ノ私財ヲ投シテ教育者ノ視察費ニ充テ教育ノ振興ヲ企テ又屢々諸名士ヲ聘シテ講演會ヲ開催シ以テ民風ノ改善思

想ノ啓發ニ努メ更ニ大正十年金參百
萬圓ヲ出資シテ財團法人齋藤報
恩會ヲ組織シ以テ公益事業ノ進
展ニ資シ着々トシテ良好ノ成績ヲ擧
ケ國運ノ發展ニ資スル所頗ル大ナリ
其他明治初年以來巨萬ノ資金ヲ運
用シテ金融ヲ計リ經濟界ニ盡シ或ハ
電氣事業ノ發達ニ力ヲ致ス等永
年文化風教並殖産興業其他公共
事業ノ爲ニ盡瘁セラル功績洵ニ顯著

文部省

ナリトス然ルニ同人ハ積勞病ヲ得本
日死亡シタルモ以際特ニ生前ニ於ケル積
年ノ功績ヲ録セラレ頭書ノ通リ敘勲
ノ榮ヲ與ヘラレシコトヲ茲ニ謹テ奏ス

大正十四年七月二十五日

文部大臣 岡田良平

内務大臣 若槻禮次郎

農林大臣 岡崎邦輔



文
部
省

履歷書

宮城縣桃生郡前谷地村前谷地百九十町番地
宮城縣平民

齋藤善右衛門

安政元年正月二十八日生

明治三年閏三月仙臺藩廳、扶持米十二石五斗奉還ノ上
桃生郡前谷地村、公職農セリ

明治五年三月 官城縣ヨリ二等戸長申付シ今七年四月迄在職

今十三年十月 官城縣會議員ニ選舉セラレタルモ同月中病氣辭任

今十五年十月 桃生郡所得稅調査委員ニ選舉セラレタルモ同月病氣
辭任

宮 城 縣

今二十三年二月 日本赤十字社員ニ列セラル

今二十三年二月 前谷地村長ニ當選認可セラレタルモ病氣ノ為、同月辭任

今 年 今 月 廣瀬大溜池ニ關スル普通水利組合創立委員被命

今二十五年三月 官城縣五選區ヨリ衆議院議員ニ選舉セラレ

今二十六年六月 日本赤十字社ヨリ宮城縣委員ヲ囑託セラル

今二十六年十月 衆議院議員ヲ辭職ス

今二十七年八月 日本赤十字社終身社員ニ列セラル

今三十七年五月 日本赤十字社特別社員ニ列セラレ有印章ヲ賜ハル

今四十三年四月 官城縣ヨリ担島公園徑學校協議委員ヲ囑託セラル

今四十三年二月 官城縣農會特別議員ヲ命セラレタルモ同月中辭任

大正十三年十二月 愛國婦人會有印章附加特別印章ヲ下賜セラル

今 年 六 月 私立東北女子職業學校顧問ヲ囑託セラル

ニ 其 他

明治四十二年十二月

大正十三年二月

今十三年十二月

齊藤株式会社社長ニ就任

財団法人齊藤郊恩會理事長ニ就任

仙台信託株式会社社長ニ就任

資産總額七千六百萬圓

宮城縣

受賞及榮典

一、受賞

明治三十四年六月	前谷地村悪水路開鑿費トシテ金壹千円ヲ寄附シタル廉ニヨリ銀壹巻個ヲ下賜セラル
今三十七年六月	北二川堤防工費トシテ前谷地村々税中ノ金壹千円ヲ寄附シタル廉ニヨリ銀壹巻個下賜セラレタリ
今三十七年十一月	日本赤十字社ヨリ宮城縣委員囑託中社業拡張ノ爲ノ盡力勸ナカサル廉ヲ以テ謝状ヲ贈ラル
今年今月	日清戦役ノ際陸兵部へ金五千円ヲ献納シタル廉ニヨリ金壹巻個ヲ下賜セラル
今三十九年八月	日本赤十字社ヨリ明治二十七八年戦役ニ對スル同社事業ヲ帮助シタル紀念トシテ木杯ヲ贈ラル
今三十七年三月	宮城私立衛生會ニ金員寄附ノ切ニヨリ宮城縣
宮 城 縣	
今四十年三月	知事ヨリ一等有功章ヲ授與セラル
今四十年三月	桃生郡前谷地小學校新築費トシテ金五千円ヲ寄附シタル廉ニヨリ金杯壹個ヲ下賜セラル
今四十年十月	明治四十二年二月桃生郡前谷地村教育費トシテ金壹千円寄附シタル廉ニヨリ銀壹巻個下賜セラル
今四十二年三月	前谷地小學校増築工事費トシテ金員寄附シタル廉ニヨリ銀壹巻個ヲ下賜セラル
今四十二年三月	前谷地村土木費トシテ金一千四百円ヲ寄附シタル廉ニヨリ銀杯一ヶ下賜セラル
今四十四年二月	青森市ニ災罹災救恤トシテ金員寄附ノ費トシテ木杯一箇組ヲ下賜セラル
大正元年八月	明治四十三年八月水害罹災窮民へ金壹千円賑恤シタル廉ニヨリ銀壹巻個下賜セラル
大正二年二月	宮城縣立図書館建築費金五万円寄附シタル廉

大正八年十二月	ニヨリ金杯走下賜セラル 官城縣立圖書館備付博物標本購入基金トシ テ金鹿萬田寄附シタル廣ニヨリ紺緞褒賞ヲ 賜ハル
大正十年八月	大正九年九月冷米郡豊里村水害罹災者救済 事業費トシテ金五百円寄附シタル廣ニヨリ官城 縣知事ヨリ褒賞セラル 外木孟及褒賞ヲ受ケルコト数テ度アルモ記載ヲ異ス
明治三十五年十月廿日	衆議院議員トシテ宇都宮城趾ニ催サレタル 御宴會ニ招待ノ栄ヲ賜ハル 陸軍特別演習ノ際獻旨ニ依リ仙若臺城趾ニ
大正十四年十一月	宮 城 縣
大正十五年八月	
大正十二年十月十日	陸軍特別大演習ノ際獻旨ヲ奉テ宇都宮市ニ 於テ催サレタル御宴會ニ参入ノ栄ヲ賜ハル
大正三年六月十日	大勳位貞愛親王殿下ヨリ産業振興精勵事ニ當リ 國運ノ伸暢ニ努力スル旨ノ御令旨ヲ賜ハル

功績調

一、育英事業並ニ其ノ附帶事項

一、貸費事業ノ開始

人材ノ養成ハ國家ニ対スル偉大ノ貢獻ナルト共ニ小ニシテハ其人ノ目的ヲ達成セシムルモノナルハ連中言フ迄モナシ然ルニ世間往々有望ノ材幹ヲ抱キナカラ不幸學費ニ乏シク所期ノ目的ヲ達シ得サルモノ多キヲ慨シ明治三十四年九月貧民ノ子弟ニ対スル貸費事業ヲ開始シ爾來之レカ爲メニ要シタル費用ト養成シ得タル人員實ニ左ノ如シ

イ、事業開始以來ノ費用九萬參千貳百拾貳圓四拾錢

ロ、貸費人員調

學費程度	卒業	右學	中途廢止	貸費中	計	備考
大學及大學程度	七三	一	九	一七	八四	貸費事業大正十三年開始 財団法人有藤兼四郎
高等學校	一三三		一一	六	一五〇	會ノ事業開始ト同時ニ之ヲ廢止シタリ
專門學校						
中學校	七	一	二	二	一二	
計	二一三	二	二二	九	二四六	

以上成業ノ人々ハ皆社會上相等ノ地位ヲ占メ國家ニ貢獻スル所鮮少ナラス

二、圖書館ノ建築費寄附

官城縣ニ圖書館設備定カラス 從テ閱覽者ノ不便甚ニキヲ見テ明治四十三年六月縣立圖書館建築費トシテ金五萬圓ヲ寄附シ尙大正八年五月官城縣立圖書館博物標本購入費金トシテ金壹萬圓ヲ寄附シ同館ノ設備ヲ定カラシメテ一般硯學者ニ多大ノ便益ヲ與ヘシ

三、教育者ノ縣外教育視察費寄附

教育ノ振興ハ人材ノ養成ト唇齒輔車ノ關係ニアルハ云フ
迄モナク文化日進ノ今日ニ在リテハ廣ク各地ノ教育狀況ヲ
視察シ採長補短以テ改善發達ヲ期スルハ最モ必要ナル
ヲ認メ大正三年以降毎年縣下教育者ノ縣外視察費
(大正三年ヨリ八年迄八年額千貳百山宛大正九年以降
八年額千參百山宛)ヲ寄附シ教育社會ニ多大ノ
便益ヲ與ヘタリ

(二) 宗教ノ研究ト其宣傳

人心ノ陶冶ハ宗教ニ待ツ所多ク大ナルヘク從テ之レカ研究ト宣
傳トハ世道人心ニ益スル慶斯カラストナレ東京帝國大學
佛教哲學講座ニ於ケル研究資金トシテ大正五年以降
毎年壹千山宛ヲ寄附シテ其研ヲ助ケ又大正六年

宮 城 縣

中大岩派本願寺ニ對シ真宗大學教養資金トシテ金
貳萬圓ヲ寄附シ更ニ布教傳道費トシテ金壹萬圓ヲ
寄附シテ其ノ活動ヲ援助シテ之ノ諸々ノ設教所ニ
布教費ヲ提供シテ其ノ便ヲ計リ又仙北同行講ナルモ
ヲ組織シテ居材及其附近ノ村落ノ信徒ヲ集メ毎月
一日十四日ノ兩日ニ設教會ヲ開キ尚ホ時々高僧積德者
ヲ招聘シテ説教又ハ講演ヲ為サシメ喜ラ人心ノ陶冶
ニ心血ヲ注キ甚効果大イニ見ルヘキナリ

(三) 勤儉力行ノ宣傳

勤儉力行ハ治産ノ要道ニシテ小ニシテハ一人一家ノ幸福ノ基
礎タルヘキハ勿論進ニテハ國家富強ノ根本ナルヲ以テ此ノ
實行普及ハ偉大ノ効果ヲ齎ラスヘキモノナリトシ其目的ヲ

障、スルノ平段トシテ黒澤講ナルモノヲ組織シ講員ニ対
シテハ嚴ニ吝者得ヲ戒ムルト及勤儉貯蓄ノ実行並ニ時局
確守等ノ要目ヲ定メテ躬行實踐範ヲ衆ニ示スト其ニ
其ノ勵行ヲ計リ十年一日ノ如ク大ニ蓄積ヲ獎勵シ又一面
ニハ隣國緝睦互助ノ美風ヲ助成セシムトテ國ヲ加之時
々名士ヲ招聘シテ講演會ヲ開催シ一般ニ勤儉貯蓄
ヲ獎勵シ兼テ思想ノ啓發善導及民風ノ改善
ニ努メ其ノ成績大ニ見ルヘキモノアリ

四、殖産興業上ノ盡力

一、金融業 明治初年ヨリ金融業ヲ開始シ巨萬ノ
資金ヲ運用シテ縣下餘清思ハ勿論廣ク金融上便ヲ
計リ以テ企業者ヲ助ケテ其ノ事業ヲ遂行セシメタルモ
ノ故興テ^{鐵道}ス明治四三年以降ハ齋藤株式會

宮城縣

社社長トシテ財界ニ多大ノ貢獻ヲシシマアリ

二、電氣事業ニ對スル盡力

電氣事業ノ發達進步ハ國家ノ進運ニ大ナル關係アリ
トナレ資金融通ヲ計リテ極力其發達ヲ幫助シ縣
下電氣事業界ニ多大ノ盡力ヲナレタリ

三、鈔票ニ對スル盡力

石炭ト工業トハ極メテ緊密ノ關係アルヲ以テ石炭業
ノ盛衰ハ直接工業ニ影響スル處大ニ(キ)言ヲ待タス
此等ノ見地ヨリシテ九州北海道乃至、常經ノ如キ主要
産地ノ企業者ヲ助ケテ其ノ經營ヲ遂ケテノ新業ニ對
シテ多大ノ盡力ヲ為シマアリ

四、農事ノ改良

農事ノ改良ハ農村經濟ニ非常ノ關係アルヲ以テ其

効ヲ收ムルヲ得ハ独リ農家自身ノ幸福ナルノミナラス大ノ国益タルヘキヲ以テ大正五年中桃生郡農事講習所建築費トシテ多額ノ金員ヲ寄附シ其事業ヲ助メ助シ又作人ニ對シテハ奨励法ヲ設ケテ米質ノ改良ヲ圖ル等成績見ルヘキヲアリ

(五) 衛生上ニ関スル施設

簡易水道ノ敷設

桃生郡前谷村ハ大部分水質劣悪飲料水ニ乏シク之カ爲メニ不測ノ傳染病ニ罹ル等住民ノ困難意想ノ外ニマルヲ慨シテ正五年中所有地黄金ヶ岡ヨリ湧出スル清泉ノ水量豊富ナルヲ利用シテ水道ノ敷設ヲ計劃シ爾來年々其ノ設備ニ改善ヲ加ヘテ清冽ナル飲料水ノ供給ヲ計リ之カ爲メニ恩澤ヲ蒙ルモハナ

宮城縣

余戸ノ多キニ達シタリ

(六) 公益財團ノ施設

自己ノ勤勞ニヨリ得タル財産ハ悉皆天財ナルヲ以テ自己應分ノ生活ニ消費スヘキモノ外ハ濫リニ費消スヘキモノニアラス分餘ノ財産ハ宜シク之ヲ提供シテ公益事業ニ投スヘキモノナリトノ信念ヨリ大正十年末金壹百萬圓ヲ出捐シ主務官廳ノ認可ヲ得テ有藤森恩會ナル公益財團ヲ組織シ聊カ國運ノ進展ニ資センカ爲メ精神上物質上必要ト認ムル事業ノ創設又補助ヲ爲スヲ以テ目的ト爲シ且ツ其ノ目的ヲ達センカクモ東北地方特ニ仙台市ヲ中心トシテ(一)特定ノ學術研究所ノ設立又一般學術ノ研究ニ必要ナル設備並ニ研究費

補助(二)産業發達ニ必スル施設(三)国民思想ノ啓
奏善導及國家觀念ノ涵養其他社會ノ幸福増進
ニ必要ナル施設等ノ事業ヲ行ハントスルモテ其資源
ハ基本財産ノ約百萬圓ヨリ生スル利子(毎年二十七萬
圓内外)ヲ以テ管理スルモノナル人収支ノ許ス限リ極力目的
事業ニ貢獻スヘキハ勿論永世解散セザルヲ一條件トシテ
成立シタルモノヨリ年々テ逐フテ其ノ成績ノ顯著ナルモ
アルハキハ言フヲ待タザルヘシ

令報恩會創立ノ趣旨ヲ明瞭トラスル爲テ熱意書
及寄附行爲等ニ関スル印刷物ヲ添付シタリ

尚ホ報恩會創立以後ノ事業及其補助金額等ヲ擧
クシテ別表ノ如クニシテ十二年度ノ實際支出額五萬八千
七百三十九圓九十四錢十三年度ノ支出決定額二十七萬

宮 城 縣

八千七百一十圓三十三錢計三十三萬六千九百一圓二十七錢
(十四年度予算八目下編(中)ニシテ支出ノ重ナルモノ
ヲ摘記スル)學術研究トシテラント文庫價格二萬
五千圓 古物學教室用 標本價格八千圓 狩野文
庫價格一萬五千圓 數學叢書價格四千五百圓
刊本及文庫價格五千圓等ノ買入寄附ヲ初トシ
大學教授其他諸學校教授ノ研究費トシテ十餘
萬圓 產業奨励トシテ農畜林具館ノ建設費三萬
圓 社會事業費トシテ施療費六萬七千餘圓 講演
費六千八百餘圓等ニシテ何モ相當効果ヲ興テケル
アリ尚考テトシテ施療費ノ内并テ字社ニ於ケル
診療所ノ成績表ヲ添付セリ

寄附、概要

明治三十四年六月 前谷地村惠水路開鑿費トシテ金壹千圓

ヲ寄附ス

三十五年六月 北上川堤防工費トシテ前谷地村々稅中ハ

金壹千圓ヲ寄附ス

三十七年十月 日清戰役ノ際恤兵報國ノ越趣旨ヲ

以テ軍資金トシテ陸軍恤兵部ハ金五千圓

ヲ献納ス

三十二年六月 桃生、牡鹿、兩郡公立病院敷地トシテ宅

地八拾六坪ヲ寄附ス

三十五年十月 前谷地村々積債還資金トシテ金四千貳

百六拾九圓ヲ寄附ス

三十六年一月 前谷地村村有財産新設費ノ内ハ金六百

宮城縣

圓ヲ寄附ス

三十六年七月 前谷地村小學校敷地トシテ田畑五畝拾

九步ヲ寄附ス

三十七年五月 日本赤十字社ハ金壹千圓ヲ寄附ス

三十七、八年 戰役ノ際從軍者家族扶助ノ爲メ

金六百六圓ヲ寄附ス

三十八年 凶作ノ際罹災窮民救恤トシテ宮城

縣、福島縣、岩手縣ハ金五千圓ヲ寄

附ス

三十四年三月 前谷地小學校新築費トシテ金五千

圓ヲ寄附ス

三十四年三月 前谷地村教育費トシテ金參千圓

ヲ寄附ス

明治四十三年三月 前谷地村小學校増築工事費トシテ

金五百圓ヲ寄附ス

令 年五月 前谷地地場小學校増築費ノ内ハ

金五百圓ヲ寄附ス

令 年六月 宮城縣立圖書館建築費トシテ金

五萬圓ヲ寄附ス

令 年十月 一府十三縣水害臨時救済會ハ金

壹千圓ヲ寄附ス

令 四十四年一月 大谷派本願寺眞宗京都中宗

教育費ノ内ハ金五百圓ヲ寄附ス

令 年三月 前谷地村土木費トシテ金壹千貳

百圓ヲ寄附ス

令 年七月 恩賜金財團齋生會ハ金參萬圓

宮 城 縣

ヲ寄附ス

大正三年五月 東本願寺相續講ハ金五百圓ヲ寄附ス

令 年九月 大谷派東本願寺東北別院内幼

稚園新築費ノ内ハ金壹萬五百圓

ヲ寄附ス

令 日 教育家縣視察費トシテ宮城縣

教育會ハ金壹千貳百圓ヲ寄附ス

令 四年四月 大谷派本願寺相續講ハ金參

千貳百圓ヲ寄附ス

令 年十一月 教育家縣外視察費トシテ宮城縣

教育會ハ金壹千貳百圓ヲ寄附ス

大正五年一月 桃生郡農業講習所建築費中

ハ金七圓百三十二圓ヲ寄附ス

大正八年五月 前谷地村黒沢消防組基金トシテ

金壹千圓ヲ寄附ス

大正九年三月 東京帝國大學佛教哲學研究資

金トシテ金壹千圓ヲ寄附ス

大正九年六月 宮城縣下教育家ノ縣外視察員トシ

テ金貳千四百圓ヲ寄附ス

大正十年二月 登米郡豊里村水害救済事業員

トシテ金五百圓ヲ寄附ス

大正十年十月 東京帝國大學佛教哲學研究獎學

資金トシテ金壹千圓ヲ寄附ス

宮城縣下教育家ノ縣外視察員學事

視察員トシテ金貳千六百圓ヲ宮城縣

ニ寄附ス

宮城縣

大正十一年六月 東京帝國大學佛教哲學研究獎

學資金トシテ金壹千圓ヲ寄附ス

大正十一年三月 東本願寺立教開宗紀念法要志

納トシテ金五百圓ヲ寄附ス

大正十一年二月 財團法人齊藤報恩會創立費

ノ内、金參千貳百四拾五圓貳拾四錢

五厘ヲ寄附ス

大正十一年八月 東京帝國大學ノ佛教哲學研究獎

學資金トシテ金壹千圓ヲ寄附ス

大正十一年十月 東京地方震災罹災者救濟費トシ

テ金貳萬圓ヲ寄附ス

大正十一年十月 桃生郡北村箱泉寺ノ火葬場新設

費金六百三十圓ヲ寄附ス

大正十三年六月 東京帝國大學併教哲學獎學

資金トシテ金壹千圓ヲ送附ス

合計件数五拾件 金額百貳拾壹萬六千五百貳圓

貳拾四錢五厘

外土地寄附貳件 價格見積金參千圓

主口千圓以 下ノ寄附 貳百件 此金額壹萬五千四百參拾九圓

參拾四錢

總計件数百五拾貳件 金額參百貳拾參萬四千九百

四拾壹圓五拾八錢五厘

宮 城 縣

財團法人齊藤報恩會事業調査表

種別	大正十二年度		大正十三年度		計	記事
	金額	件数	金額	件数		
學術研究費	五六〇三九九四		一六八九一六、五六		二四九五六、五〇	大正十三年度、内、前年度ヨリ起、三、三五四、〇六
東北帝國大、學子	四〇八三九、九四		一五七、四一六、五六		一九八、二五六、五〇	
第三高等學校	二、二〇〇、〇〇		二、〇〇〇、〇〇		四、二〇〇、〇〇	
仙臺高等工業學校	七、〇〇〇、〇〇		七、〇〇〇、〇〇		一四、〇〇〇、〇〇	
其他學術研究費	六、〇〇〇、〇〇		二、五〇〇、〇〇		八、五〇〇、〇〇	
視察費	三、〇〇〇、〇〇		三、〇〇〇、〇〇		三、〇〇〇、〇〇	
出版費	三、〇〇〇、〇〇		二、五〇〇、〇〇		五、五〇〇、〇〇	左
立生業事業費			三、〇〇〇、〇〇		三、〇〇〇、〇〇	左
農業館費			三、〇〇〇、〇〇		三、〇〇〇、〇〇	左
社會事業費	二、七〇〇、〇〇		七九、二四四、七七		八一、九四四、七七	
托児事業費			四、五〇〇、〇〇		四、五〇〇、〇〇	
施療費寄附			六七八三四、七九		六、八三四、七九	大正十三年十月十日、閉鎖
愛國婦人會			一、八三四、七九		一、八三四、七九	全日開所
赤十字社診療			六、〇〇〇、〇〇		六、〇〇〇、〇〇	大正十三年、内、前年度ヨリ起、二、〇〇〇、〇〇
建築費			四三、五八九、七四		四三、五八九、七四	
設備費			一七、四一〇、二六		一七、四一〇、二六	
其他施療			六、〇〇〇、〇〇		六、〇〇〇、〇〇	
思想善導講演	二、七〇〇、〇〇		四、一〇九、九八		六、八〇九、九八	
講習費			二、八〇〇、〇〇		二、八〇〇、〇〇	
教育視察費			五、七三九、九四		五、七三九、九四	
計	五、七三九、九四		二、七七八、二六六、三三三		三、三三六、九〇一、三七	

備考 大正十二年度ハ決算額ニレテ大正十三年度ハ決定額ナリトス

宮城縣

宮城縣

計	月別					
	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月
日診	一〇	二五	二五	二五	二五	一〇
新患者数	一七一	二六八	一七二	三〇〇	二〇六	二三八
全内済生 會患者数	一三〇	九三	七七	一〇五	三八	四九〇
新患者 日平均	一七一	一〇七	六九	三〇	八九	一〇五
取扱患者 延数	四九六	一七六三	三〇六九	一九九	二一九八	二〇二一
左 上 日平均	四九六	七〇五	三三七	七六三	九五五	一〇三〇
入室 患者数 日平均			三四	一三	一四四	二二七
			三八	三六	五二	七三

備考
 診療 八月十八日より入室 八月二十日より
 開始

自 大正十三年十月
至 大正十四年四月 診療所收支計算書 (至十四年四月廿七日現在)

收入

區

分

收入額

報恩會 交付金

五五五三一

三四〇

濟生會 委託患者治療費 交付金

七三一

〇八〇

其他 藥價及手術料等收入

一一三八

八〇〇

計

五七、四〇一

二二〇

支出

區

分

支出額

建物 建築費

三四、六〇〇

八三〇

經常費

二一、七六〇

八三〇

計

五六、三六一

六六〇

收支差引現在金 一〇三九四五六〇

宮城縣

財團法人齋藤報恩會
設立者齋藤善右衛門演說筆記
寄附行爲及同施行細則

財團 齋藤報恩會創立ノ際
齋藤善右衛門演說筆記

大正拾年拾月拾貳日宮城縣圖書館ニ於テ報恩會創立ノ爲メ評議會開
催ノ際設立者齋藤善右衛門ガ寄附行爲付演說シタル大要ヲ左ニ筆記
ス

寄附行爲ノ件ニ付毎度御高教ヲ蒙リタル結果財團法人組成ノ事トナリマ
シテ今回名譽アル諸君方ニ對シ財團ノ役員タルコトヲ御依頼致シマシタ
ル處御一同ノ御快諾ヲ得マシテ今日ノ創立評議會ニ御列席ヲ忝ウスル事
トナリマシタノハ實ニ望外ノ幸福デ且ツ光榮ノ至リニ堪ヘザル次第デア
リマス謹デ此段御禮ヲ申上マス

サテ此寄附行爲ニ關シマシテ一言申上タク存ジマスルノハ從來私ガ理想
トシテ居リマシタル人生觀ニ對スル覺悟ニ付テマアリマシテ實ハ先生方

ノ前ニ申上ルノハ誠ニ僭越ノ至リデアリマスガ暫時御清聴ヲ煩シ度ク存
ジマス元來私ハ神力佛カ魂ニ角偉大ノ力ヲ有スルモノアリテ人間ノ生レ
出ルト同時ニ人類ノ生存上必要ナル慾望ノ性質ヲ本能的ニ附與シテ世界
文化ノ發展向上ヲ圖ラシムル事ニナシタルモノト言フ事ヲ確信シタノデ
アリマス

又此ノ天性アツテ初メテ人類ハ生存スル事ガ出來ルデアラウト思ハレマ
ス故ニ各自其慾望ヲ達セントシテ日夜營々トシテ働ク者ハ其實世界人類
ノ爲メ神佛ニ勤勞セシメラル、モノニ外ナラナイノデアアル依テ學者宗教
政治家ナリ又我々營利的事業ニ從事スルモノ其他凡テ人間ガ其勤勞ノ
結果ニ依リ得タルモノハ即チ天物ニシテコレヲ人類ノ幸福ニ提供スベキ
モノニテ決シテ自己ニ私スベキモノデナイ我々ノ如キ直接營利事業ニ從
事シ得タル財産ハ取リモ直サズ天財デアツテ吾人ハ只僅ニ我分限ニ應ジ
衣食住其他生活上必要ナル費用ノ外ハ悉ク天財デアアルカラ一金タリトモ

亂ニ使用スベキモノデナイ若シ之ヲ自家ノ私財トシテ浪費シ且勤勞ヲ怠
ル時ハ忽チ破産ノ天罰ヲ受クル者デアルト信ジマス就テハ神ノ使命ニ依
リ委託サレタル人類共有ノ財産タル一部即チ我持分ニ對スル財産ハ宜敷
天意ヲ奉戴シ我生前ニ於テ處分スベキハ當然ノ義務ト覺悟シタノデアリ
マス以上ノ次第ガ動機トナリマシテ今回報恩ノ爲メ公益事業ノ基本金ト
シテ金三百萬圓ヲ出捐シテ財團ヲ組織シ其利得金ヲ毎年公共事業ニ提供
スル事ト致シマシタ次第デアリマスカラ將來トモ本財團ノ評議員ニ御願
ヒ致シマスル方々ハ神佛ニ代リ誠心誠意ヲ以テ此天財ニ對シ事業ノ緩急
及ビ必要ノ程度ニ依リ公平ニ其使用ノ道ヲ考究下サレマシテ天意ニ背カ
ナイ様ニ御注意ヲ願ヒタイノデアリマス委員ノ方々ニ於テハ齋藤家ノ名
譽ナドノ意味ニテ使用シ遣ハサンナド、言フ御考等ハ決シテ御心配下サ
レナイヤウニ願ヒマス若シ齋藤家ノ爲メニ願フ様ノ事ナドアリマシテハ
先生方ノ徳ヲ汚シ誠ニ以テ恐縮ノ至リニ堪ヘナイノデアリマシテ決シテ

私共ノ本意デゴザリマセス總テ本財團ノ事務ニ對シテハ委員ノ方々ハ神佛ノ代理ヲ行フ者デアルト言フ御觀念ハ暫クモ御念頭ヲ去ラナイ様ニ諸事神聖的ニ御處置アラシコトヲ希望致シマス若シ本財團ニヨリマシテ永ク子孫ニ報恩主義ノ規範ヲ體得セシムル事ガ出來且ツ幸ニ彼等ガ能ク家道ヲ守リ相當ノ富ヲ得マシタル時ハ更ニ又分餘ノ財産ヲ提供スル途ヲ開カシムルヤウニ致シマシテ益其基礎ヲ鞏固ニシ永遠ニ此主義ノ實行ヲ圖ラシメン事ヲ期シタイノデアリマス而シテ此事業ニ對シテハ一切名利ノ俗念ヲ斷ツベキハ勿論子孫ニ如何ナル場合アリマシテモ絶對ニ累ヲ此財産ニ及ボササル事ヲ誓ヒ百世ノ後チニ至ルマデ神聖ニ此事業ノ目的ヲ完全ニ維持遂行スル事ヲ得マシタナラバ誓ヒ私共ノ一家一族悉ク滅亡シテ離散ノ不幸ヲ見ルニ至リマシテモ本財團ガ永ク歴代ノ委員諸君ノ御盡力ニ依リマシテ永遠無窮ニ之ガ實行ノ生命ヲ維持スル事ヲ得マシタナラバ此上モナキ本懐ノ至リニ堪ヘザル次第デアリマス

四

公益事業ノ爲メ本財團ヲ組成スルノハ今回始メテノ仕事デアリマスカラ今後幸ニ委員方ノ御指導ニ依リ神人ノ意ニ背カザル様公平ニ且圓滿ニ天財使用ノ道ヲ御實行下サルコトニナリマシタラ私共及ビ子孫ノ満足此上モナキ事デアリマスルカラ今後家政ノ許ス限リ臨時必要ニ應ジ更ニ又應分ノ基本金ヲ増額スル事ヲ辭セナイノデアリマス就テハ偏ニ委員諸君ノ御懇篤ナル御指導ト御盡力トヲ敢テ懇願スル次第デアリマス

元來私ガ性行ノ一癖トシテ壯年時代ヨリ生活上質素儉約ヲ堅ク守リ來リマシタノハ單ニ金ヲ愛セシ爲メノミデナク總テ華奢贅澤ノ生活ハ自己ノ慰安ニナラザルノミナラズ却テ煩累ヲ重ネ身心ノ苦惱ヲ増ス結果トナリ又質素ノ生活ハ諸事簡易ニシテ自然ノ成行ニマカセ生活スルノデアリマスカラ誠ニ安樂ナルモノデアリマス然ルニ世人ハ私ヲ極端ノ吝嗇家トシ富メル身ヲ以テ爪ヲ火ニスル如キ苦心慘憺ナル質素ノ生活ヲスルモノト誹謗スルモノガアリマスルガ一體人間ハ平素簡易ノ生活ニ甘ジ各其業務

五

ヲ勵ミ圓滿ナル活動的生活ヲスルノハ最モ安心ナル方法ニシテ私ハ之ヲ以テ無上ノ樂トシテ居ルノデアリマス之レガ即チ天意ノ致ス所ト確信シタノデアリマス今ヨリ二十年前住宅ノ山上ニ山莊ヲ營ミタル事ガアリマスガ斯ノ主義ニ基キ建築庭園等總テ質素ヲ旨トシテ専ラ天然ノ風致ヲ樂シム事ニ致シ園ノ名ヲ清樂園ト稱シタノデアリマシタ蓋シ清樂ナルモノハ假令王侯ノ富貴アリトモ驕樂ニ耽ルモノハ得ベカラズ常ニ清貧ニ安ンジ天然自然ヲ愛スル者ニシテ始メテ之ヲ得ルト言フ益軒翁ノ説ニ基キ諸事質素ヲ旨トシ専ラ天然ヲ樂ム事ニ勤メタルノデアリマス又第二ノ山莊ハ無一庵ト號シ此レハ前ニ申上マシタル如ク自己ノ財産ハ悉ク天財ニシテ自己ハ只我持分ノ天物ヲ管理スルニ止リ殆ンド無財産ノ姿ナリト言フ意味ヨリ命名シタノデアリマス又自分ノ號ヲ無一ト稱シ自ラ慰メ且清貧ヲ氣取居ル者デアリマス然ルニ此天財ヲ自己ノ私有トナシ華奢ノ生活ニ亂費シ又ハ一時姑息ノ愛ニ溺レ巨萬ノ財産ヲ子孫ニ與ヘ彼等ヲシテ奢侈

六

安逸ニ陥レ悲慘ノ最後ヲナサシムル者世ニ甚ダ多イノハ實ニ親タル者ノ子孫ニ對シ誠意ナキ無慈悲ノ致方ト云ハザルヲ得マセシレ即チ天物ヲ私財ト見テ浪費シタル誤リノ結果自然天罰ノ制裁ヲ受クタリト云フヨリ外ナキ事デアリマス故ニ我財産ハ我財産ノ如クナルモ全ク天財デアアル若シ之ヲ私シテ衣食住ヲ華奢ニシ豪遊ヲ恣ニスル時ハ苦惱ノ本トナリ又之ヲ子孫ニ遺ス時ハ子孫ヲ墮落セシムル本トナリ何レヨリスルモ私心ヨリ來ル財貨使用ノ道ハ悉ク害アリテ益ナキモノデアリマスカテ常ニ浪費ヲ慎ミ分餘ノ財産ハ宜シク天意ヲ奉戴シ報恩主義ニ依リ一般公益事業ニ提供シ衆ト喜ビテ借ニスルノ道ヲ講ズルヨリ外ニ良法ハナイト考ヘマス即チ私ノ理想トシテハ私財ナルモノハ絕對他ニ使用ノ道ナキモノト覺悟シタノデアリマス即チ之ガ天理自然ヨリ來ル使命ニテ茲ニ至ラシメラル、モノト信ジマス故ニ我分餘ノ財産ハ悉ク投グ出スモ愛シキ心ナキノミナラズ却テ衷心ヨリ欣快ノ情ニ堪ヘザルノデアリマシテ今回ノ寄附行爲モ

七

全ク此感情ヨリ來ル自覺的ノ結果ニ促サレタルモノニ外ナラス事デアリ
マス
過般皆様ノ御手許ニ提出シ置キマシタル財團法人ニ關スル寄附行爲ノ草
案ニ對シ御意見ノアル所ハ御遠慮ナク充分ニ御批評ノ上何分宜シク皆様
ノ御指導ヲ仰グ様敢テ懇願ノ至リニ堪ヘザル次第デアリマス
大正拾年拾月

齋藤善右衛門述

寄 附 行 爲

齋藤善右衛門ハ公益事業ノタメ金參百萬圓ヲ出捐シ之ヲ財團法人トナシ
其基礎ヲ鞏固ニシ永遠ニ報恩主義ノ實行ヲ圖ラン事ヲ期シ茲ニ寄附行爲
ヲ以テ左ノ條項ヲ定ム

第 壹 目 的

- 第壹條 本財團法人ハ國運ノ進展ニ資センガ爲メ精神上物質上必要ト認
ムル事業ノ創設及補助ヲ爲スヲ以テ目的トス
- 第貳條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ東北地方特ニ仙臺市ヲ中心トシテ左ノ
事業ヲ行フ
- 一、特定ノ學術研究所ノ設立及一般學術ノ研究ニ必要ナル設備並ニ研究
費ノ補助
 - 二、産業發達ニ必要ナル施設

三、國民思想ノ啓發善導及國家觀念ノ涵養其他社會ノ幸福増進ニ必要ナル施設

第貳 名稱及事務所

第參條 本財團法人ノ名稱ハ財團法人齋藤報恩會ト稱ス

第四條 本財團法人ノ事務所ハ宮城縣仙臺市東二番丁八拾五番地ニ置ク

第參 資産及會計

第五條 本財團法人ノ資産ハ左ノ金品ヨリナル

一、設立者齋藤善右衛門ノ寄附ニ係ル金參百萬圓

二、財産ヨリ生ズル收益

三、其他本會ニ於テ取得スル財産

本財團法人ハ資産臺帳ヲ調製シテ之ニ各資産及變更事由ヲ明記シ爾後資産ニ増減又ハ變更アル毎ニ之ヲ登錄スルモノトス

第六條 前條ノ資産中寄附財産金參百萬圓ハ基本財産トシテ之ヲ永遠ニ

保管シ如何ナル事情アルモ費消スルコトヲ許サズ

第七條 基本財産ハ確實ナル有價證券ヲ購入シ又ハ郵便貯金若クハ堅實ナル銀行ノ預金トシ其他ハ理事會ノ決議ニヨリ主務官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ管理ス

第八條 本財團法人ニ金員又ハ物件ヲ寄附スルモノアルトキハ之ヲ受領シ資産ニ編入ス但シ目的ヲ指定シタルモノハ各其用途ニ充ツルモノトス

第九條 本財團法人ノ事業經營上毎年所要ノ經費ハ基本財産ヨリ生スル利子其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ歲計ノ剩餘金ハ基本財産ニ編入シ若クハ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第十條 本財團法人ハ有益ナル事業費ノ支出ヲ要スルニ當リ其年度ノ收入金繰越金ヲ以テスルモ尙其財源ニ不足ヲ生ズル時ハ評議員會々員總數ノ四分ノ參以上一致ノ議決ヲ以テ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ五ヶ年

以內ニ完済シ得ル事ヲ要ス

第拾壹條 第貳條ニ規定スル本財團ノ目的タル事業ニ要スル費用ハ左ノ割

合ヲ以テ之ニ充當ス

第貳條第壹 所得ノ拾分ノ六以內

第貳條第貳 所得ノ拾分ノ貳以內

第貳條第參 所得ノ拾分ノ貳以內

第拾貳條 本財團法人ノ會計年度ハ毎年四月壹日ニ始マリ翌年參月參拾壹

日ニ終ル

第拾參條 本財團ハ事業年度毎ニ財産目錄貸借對照表及事業報告書ヲ作り

決算ト共ニ評議員會ニ提出スベシ

第四 役員

第拾四條 本財團法人ニ臨時必要ニ應ジ顧問若干名ヲ置クコトアルベシ

顧問ハ本財團法人ヲ輔導シ重要ナル事項ニ付諮詢ニ應ズ

第拾五條 本財團法人ニ理事五名ヲ置キ内壹名ヲ理事長トス

理事長ハ本財團法人ヲ代表シ一切ノ事務ヲ掌理ス

理事長事故アルトキハ互選ニ依リ他ノ理事之ヲ代理ス

理事ハ理事長ノ指揮ヲ受ケ左ノ事項ニ付審議處理ス

一、基本財産並ニ他ノ資産ノ管理及維持ニ關スル事項

二、事業方針及實施ニ關スル事項

三、評議員會ニ提出スベキ議案ニ關スル事項

四、其他本財團ニ關スル一切ノ事項

第拾六條 本財團法人ニ監事貳名ヲ置ク監事ハ本財團法人ノ資産及事業ヲ

監査ス

第拾七條 本財團法人ニ評議員拾名以上拾六名以內ヲ置ク

第拾八條 本財團法人ノ役員ハ創設ノ際設立者ニ於テ之ヲ推薦依囑ス

第拾九條 役員任期滿了ノ際又ハ缺員ヲ生ジタルトキハ評議員會ノ議決ヲ

經テ理事長ニ於テ之ヲ推薦依頼ス
役員補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス
役員任期満了ノ場合ニ於テ其後任者ノ就任スル迄ハ尙前任者ニ於テ其
任務ヲ行フモノトス

第貳拾條 本財團法人ノ設立者又ハ家督相續人ハ當然本財團法人ノ理事長
タル理事トス但シ特殊事由ニ依リ理事長タルコト能ハザルトキハ評議
員會々員總數四分ノ參以上ノ一致ノ議決ヲ經齋藤家ノ親族中ヨリ選任
ス若シ其親族中ニ適任者無キトキハ評議員全數ノ同意ニ依リ他ノ理事
ニ之ヲ依頼スベシ本條但書ノ場合ニ於ケル理事ノ任期ハ五ケ年以内ニ
於テ之ヲ定ム

第廿壹條 理事ノ任期ハ五ケ年トシ監事及評議員ノ任期ハ參ケ年トス但シ
重任ヲ妨ゲズ

第廿貳條 本財團法人ノ役員ハ總テ名譽職トス

第五 理事會及評議員會

第廿參條 理事會ハ毎月壹回之ヲ開ク但シ必要アルトキハ臨時ニ開クコト
アルベシ

理事會ニ於テ審議スベキ事項ハ第拾五條ニ定ムル處ニ依ル
監事ハ理事會ニ參加シ意見ヲ述ブル事ヲ得但シ可否ノ數ニ加ハルコト
ヲ得ズ

第廿四條 評議員會ハ評議員及理事ヲ以テ組織ス

監事ハ評議員會ニ出席シテ意見ヲ述ブルコトヲ得但シ決議ニ加ハルコ
トヲ得ズ

第廿五條 評議員會ハ必要ニ應ジ隨時之ヲ開ク

第廿六條 理事會ノ議長ハ理事長之ニ當リ評議員會ノ議長ハ評議員會々員
ノ互選ニ依ル
理事會及評議員會ハ理事長之ヲ招集ス

第廿七條 評議員會ニ於テ議決スベキ事項左ノ如シ

一 本財團法人ノ事業ノ選定及其實行ニ關スル事項

二 豫算並ニ決算ニ關スル事項

三 借入金並ニ其償還方法ニ關スル事項

四 其他重要ナル事項

第廿八條 評議員會ハ評議員會々員總數ノ半數以上出席スルニアラザレバ開會スルコトヲ得ズ但シ再度招集スルモ尙半數ニ達セザルトキハ此限リニ在ラズ

第廿九條 議事ハ本寄附行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第卅條 評議員會ノ決議録ニハ出席議員貳名以上ノ署名捺印ヲ要ス

附 則

第卅壹條 本財團法人ハ時勢ノ變遷其他如何ナル事由アルモ財團ノ目的ヲ

遂行シ得ル限リハ幾百世ヲ經ルモ絶對ニ解散セザルモノトス

第卅貳條 本財團法人ノ寄附行爲ハ評議員會ニ於テ評議員會々員總數ノ四分ノ參以上一致ノ議決ヲ經タル上理事長ノ同意ニ依リ主務官廳ノ認可ヲ得ルニアラザレハ之ヲ變更スルコトヲ得ズ

大正拾年拾月拾貳日

設立者 齋藤善右衛門

財團法人齋藤報恩會寄附行為施行細則

第一條 寄附行為第二條ニ該當スルモノニシテ本會ニ於テ施設又ハ補助スル事業ハ以下各條ノ規定スル所ニ據リ之ヲ處理ス

第二條 前條ノ事業ハ左ノ區分ニ據リ之ヲ行フ

一、本會ノ直接施設

二、本會ノ間接施設

三、補助

第三條 本會ノ直接施設ハ理事會ニ於テ起案シ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ行フ

第四條 本會ノ間接施設ハ官公署學校公共團體等ト協議ノ上理事會ニ於テ起案シ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ行フ

第五條 本會ノ補助ヲ受ケントスルモノハ第一號様式ニ據リ申込ムベシ

前項ノ申込ハ理事又ハ評議員ノ紹介アルコトヲ要ス

第六條 前條ノ申込書ニハ左記各號ノ書類ヲ添付スベシ

一、事業ノ目的計畫及其説明書

二、收支豫算及其説明書

三、事業經營責任者ノ履歷書

四、理事又ハ評議員ノ紹介書

既ニ着手シタル事業ニアリテハ前項各號ノ外事業ノ沿革經過ニ關スル

説明書ヲ添付スルコトヲ要ス

第七條 本會ニ於テ第五條ノ申込ヲ受領シタルトキハ理事會ニ於テ調査

ヲ遂ゲ評議員會ノ議決ヲ經ルモノトス

第八條 理事又ハ評議員會ニ於テ第五條ノ事業ニ關シ必要アリト認メタ

ルトキハ更ニ詳細ナル調査又ハ説明書ノ提出ヲ求ムルコトアルベシ

第九條 本會ニ於テ第四條及第五條ニ該當スル事業ヲ決定シタルトキハ

其旨ヲ事業經營者ニ通知スルモノトス

第十條 前條ニ依リ補助ノ通知ヲ受ケタル者ハ速ニ第二號様式ニ據リ契

約ノ手續ヲナスベシ

第十一條 第四條及第五條ノ事業經營者ハ毎年一回及事業終了後本會ニ對

シ左ノ報告ヲ提出スルコトヲ要ス

一、事業ノ經過及成績

二、經費收支ノ狀況

豫期以上ノ成績ヲ收メタルト認メタルトキ又ハ成績不良ニシテ豫期ノ

効果ヲ收メ難シト認メタルトキハ即時報告スベシ

第十二條 本會ニ於テ事業ノ内容及實質等ニ關シ調査スルノ必要アリト認

メタルトキハ事業經營者ハ本會ノ要求ニ應ジテ調査上一切ノ便宜ヲ供

與スルノ義務アルモノトス

第十三條 事業經營者ハ經費ノ收支ヲ明確ナラシムルニ必要ナル書類ヲ保

存シ帳簿ヲ備フベシ
 第十四條 本會ハ場合ニ依リ評議員會ノ議決ヲ經テ事業ノ執行ヲ停止中止
 又ハ補助契約ヲ取消コトアルベシ
 前項ノ場合ニ於テ本會ノ都合ニ基カザルトキハ事情ニ依リ評議員會ノ
 議決ヲ經テ既ニ交附又ハ補助シタル金品ヲ返納セシムルコトアルベシ
 第十五條 前條ノ場合ニ於テ事業經營者ニ損害ヲ生ズルコトアルモ本會ハ
 賠償ノ責ニ任ゼス
 第十六條 事業經營者ハ總テ本會寄附行爲及本細則ヲ了知シタルモノト看
 做ス

様式第一號 申込書案

年 月 日 住所 氏 名 印

財團法人齋藤報恩會理事長宛

何々申込書

私儀(何々)ニ對シ貴會ヨリ研究費何々補助相受度候間御承諾被下度別紙
 書類相添へ此段申込候也

記

添付書類ノ目次ヲ記載スルコト

様式第二號

契約書案

年 月 日 住所 氏 名 印

財團法人齋藤報恩會理事長宛

契約書

私儀(何々)ニ對シ貴會ヨリ研究費(何々)補助ノ儀年月日附第何號ヲ以テ御

承諾相受ケ候ニ付テハ貴會寄附行爲並ニ同施行細則ハ勿論左記條項ヲ
遵守シ熱誠以テ本事業ノ完成ヲ期スベク候仍テ契約書差出候也

二四

一、何々

承諾通知書ニ記載ノ條項ヲ記載スルコト

役員

理事

齋藤善右衛門

手島雄八郎

中村梅三

高城畊造

齋藤圭助

監事

伊澤平左衛門

黒澤直衛

評議員

力石雄一郎

二五

鹿又武三郎
小川正孝
林鶴一
畑井新喜司
宮城音五郎
井上仁吉
遠山郁三
熊谷岱藏
杉村七太郎
新保徳壽
齋藤永治
菅原長傳
佐藤長成

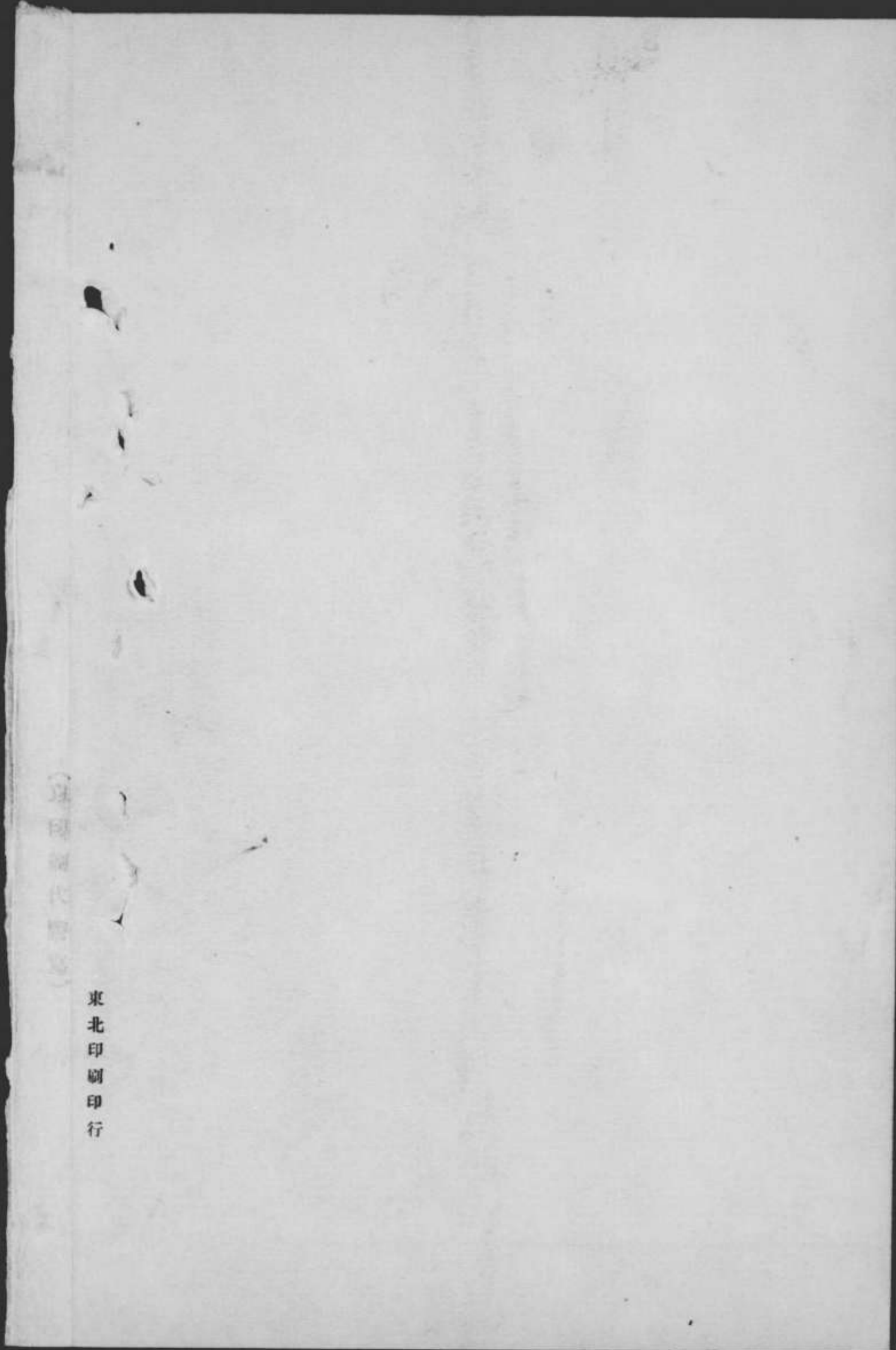
二六

佐藤丑次郎
岡野義三郎

二七

72

73



東北印刷行

めくれず

賞勳局

城四四號

齋藤善右衛門叙勲ノ件
右 上奏書及進達候也

大正十四年七月二十五日

文部大臣 岡田良平

内務大臣 若槻禮次郎

農林大臣 岡崎邦輔

文部省

内閣總理大臣子爵加藤高明殿